

7 国際交流

進捗状況報告

教員の海外からの受け入れについては、2005年度に計5名、2006年度に計7名の客員教員・研究員を招聘した。教員の国際交流促進のための全学的な制度改革、あるいは海外渡航関係費補助などにおける文学部・文学研究科独自の予算化を視野に入れつつ、国際交流の一層の促進を予定している。

なお、外部資金（文部科学省・日本学術振興会「魅力ある大学院教育イニシアティブ」等）の導入により、大学院生に対する海外の学会発表に必要な渡航費援助が一部の専攻で可能となった。こうした外部資金導入を契機として、教員・大学院生の国際交流に対する支援体制が整備されつつある。

学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

毎年多数の専任教員が留学・海外出張を行っている。2005年度には留学3件、海外出張が37件、2006年度には留学1件、海外出張が33件あり、その成果が教育・研究に生かされている。外部資金を有効活用した例の一つでもあるが、国際学会での研究発表も多数なされている（2005年度、2006年度ともに20件以上）。それらの多くは大学院生と専任教員との共同研究であり、教育・研究の両側面において留学・海外出張が有効に機能している。

また文学言語学科の専門科目および言語系科目を中心として、外国人教員延べ39名（非常勤講師を含む）によって、全57科目（総計165クラス）において教育が行われている。

学内第三者評価

（文学研究科と共通）

学部・研究科として国際交流を支援しようとしている点が評価できる。しかし、教育における日常的な国際交流に関して、より具体的な制度を設けることが望まれる。また、外部資金の導入をさらに拡大し、研究科全体で実現できる方法の検討が期待される。

なお、特別委員からは以下の意見があった。

外部資金も導入し、短期ながら客員教員・研究員の招へいも行なわれているが、日常の教育・研究活動にどのようなインパクトがあるのか詳しい記述が求められる。